

「新たな年を迎える冬休み」

早いもので、もうすぐ冬休み、2024年が終わろうとしています。

冬休みは約二週間と短いですが、一年の終わりと始まりを経験する大切な時期で、日本の古き良き伝統に触れる機会でもあります。

<大掃除> 年末には、一年の終わりとして各家庭で大掃除をしたいと思います。これは、お正月の神様である年神様(としがみさま)を迎えるために行うのです。年神様は、新年に来てくださる幸せの神様といわれており、失礼がないように家の中を清めておく必要があるからです。

<門松・鏡餅> 大掃除が終わると、門の前に門松を立てます。今は紙に印刷された門松を貼って代用することが多いですが、門松は年神様が家を訪れる目印として立てるのだそうです。家の中には年神様へのお供えとして鏡餅を飾ります。

<年越しそば・除夜の鐘> 大みそかには、年越しそばを食べます。そばは切れやすいので、一年の労苦や災厄(さいやく)をさっぱり断ち切って新年を迎えるという意味や、そばは長くのびるので、寿命を延ばし、家運を伸ばすという意味があります。除夜の鐘は108回鳴らされますが、これは一年間に人間の中にたまってしまった怒りや苦しみ、欲望といった108つの煩惱(ぼんのう)を取り払い、まっさらな気持ちで新年を迎えるためなのです。大みそかの深夜に鐘をつき始め、年内に107回、年が明けたタイミングで108回目を鳴らすのだそうです。

<お雑煮・お年玉> お正月に食べるお雑煮は、もともとは年神様にお供えした鏡餅を割って作ったもので、神に供えたものを共に食べる(神人共食)により、神から力を授かり元気が出るという意味があるそうです。今はお金でもらうお年玉も、昔はお餅だったそうです。毎年、元旦に年神様から魂という名前の餅をいただき、一年分の力や気を分けていただいたことから、目上の者が年下の者にお年玉を渡すようになったのだそうです。

<年賀状> 今はメールやLINEで済ませる人も多いようですが、日ごろお世話になっている人への感謝と、新年も変わらぬお付き合いをお願いしますという意味で元旦に出すのが年賀状です。元旦とは、一月一日の早朝のことです。「旦」という字は、地平線からお日様が昇った状態を表していますよね。

冬休みは、年末年始でおうちの方は何かと忙しい時です。年末年始の日本の伝統行事に込められた思いを考えながら、ぜひ、家族の一員として自分のできることを手伝ってください。そして新たな気持ちで新年を迎え、2025年の自分の目標を立ててください。

新年用に新しい目標達成シート(マンダラチャート)が欲しい人は、校長室前廊下の部活動掲示板横の机の上に置いておきますので、自由に持って行ってください。それでは、よいお年を。